

統計トピックス No. 129

統計からみた我が国の高齢者

－「敬老の日」にちなんで－

総務省統計局では、「敬老の日」（9月20日）を迎えるに当たって、統計からみた我が国の65歳以上の高齢者のすがたについて取りまとめました。

内 容

I 高齢者の人口（人口推計 2021年9月15日現在）（2ページ～）

- 総人口が減少する中で、高齢者人口は3640万人と過去最多
総人口に占める割合は29.1%と過去最高
- 日本の高齢者人口の割合は、世界で最高（201の国・地域中）

II 高齢者の就業（労働力調査）（6ページ～）

- 高齢就業者数は、17年連続で増加し、906万人と過去最多
- 高齢者の就業率は25.1%、9年連続で上昇
- 就業者総数に占める高齢就業者の割合は、13.6%と過去最高
- 高齢就業者は、「卸売業、小売業」や「農業、林業」などで多い
- 高齢の非正規の職員・従業員は10年前に比べ227万人増加し、
その割合は7.6ポイント上昇
- 非正規の職員・従業員についての主な理由は、
男女とも「自分の都合のよい時間に働きたいから」が最多
- 日本の高齢者の就業率は、主要国の中でも高い水準
- 高齢就業者数は2020年4月を除き前年同月に比べ増加

I 高齢者の人口

総人口が減少する中で、高齢者人口は3640万人と過去最多
総人口に占める割合は29.1%と過去最高

我が国の総人口（2021年9月15日現在推計）は、前年に比べ51万人減少している一方、65歳以上の高齢者（以下「高齢者」といいます。）人口は、3640万人と、前年（3618万人）に比べ22万人増加し、過去最多となりました。総人口に占める割合は29.1%と、前年（28.8%）に比べ0.3ポイント上昇し、過去最高となりました。

男女別にみると、男性は1583万人（男性人口の26.0%）、女性は2057万人（女性人口の32.0%）と、女性が男性より474万人多くなっています。

人口性比（女性100人に対する男性の数）をみると、15歳未満では105.0、15～64歳では102.6と男性が多いのに対し、65歳以上では76.9と女性が多くなっています。

年齢階級別にみると、いわゆる「団塊の世代」（1947年～1949年生まれ）を含む70歳以上人口は2852万人（総人口の22.8%）で、前年に比べ、61万人増（0.6ポイント上昇）となりました。また、75歳以上人口は1880万人（同15.0%）で、前年に比べ、9万人増（0.1ポイント上昇）、80歳以上人口は1206万人（同9.6%）で、46万人増（0.4ポイント上昇）となりました。

（表1）

表1 年齢3区分別人口及び割合（2020年、2021年）－ 9月15日現在

区 分	総人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上	うち							
					70歳以上	75歳以上	80歳以上	85歳以上	90歳以上	95歳以上	100歳以上	
2021年												
人 口 (万人)												
男女計	12522	1481	7402	3640	2852	1880	1206	648	259	67	8	
男	6090	759	3748	1583	1200	742	441	208	67	13	1	
女	6433	722	3654	2057	1651	1138	765	440	192	54	7	
総人口に占める割合 (%)												
男女計	100.0	11.8	59.1	29.1	22.8	15.0	9.6	5.2	2.1	0.5	0.1	
男	100.0	12.5	61.6	26.0	19.7	12.2	7.2	3.4	1.1	0.2	0.0	
女	100.0	11.2	56.8	32.0	25.7	17.7	11.9	6.8	3.0	0.8	0.1	
人口性比 ※	94.7	105.0	102.6	76.9	72.7	65.2	57.6	47.2	35.0	23.6	14.8	
2020年												
人 口 (万人)												
男女計	12573	1503	7452	3618	2791	1871	1160	618	244	60	8	
男	6117	770	3773	1573	1173	738	421	196	62	11	1	
女	6456	733	3678	2045	1619	1133	740	423	182	49	7	
総人口に占める割合 (%)												
男女計	100.0	12.0	59.3	28.8	22.2	14.9	9.2	4.9	1.9	0.5	0.1	
男	100.0	12.6	61.7	25.7	19.2	12.1	6.9	3.2	1.0	0.2	0.0	
女	100.0	11.4	57.0	31.7	25.1	17.5	11.5	6.5	2.8	0.8	0.1	
人口性比 ※	94.7	105.0	102.6	76.9	72.4	65.2	56.9	46.3	34.1	22.1	14.8	

資料：「人口推計」

※) 女性100人に対する男性の数

注1) 2020年及び2021年は、平成27年国勢調査を基準としている。

注2) 表中の数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計が一致しない場合がある
(以下この章において同じ)。

総人口に占める高齢者人口の割合の推移をみると、1950年（4.9%）以降一貫して上昇が続いており、1985年に10%、2005年に20%を超え、2021年は29.1%となりました。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、この割合は今後も上昇を続け、第2次ベビーブーム期（1971年～1974年）に生まれた世代が65歳以上となる2040年には、35.3%になると見込まれています。（図1、表2）

図1 高齢者人口及び割合の推移（1950年～2040年）

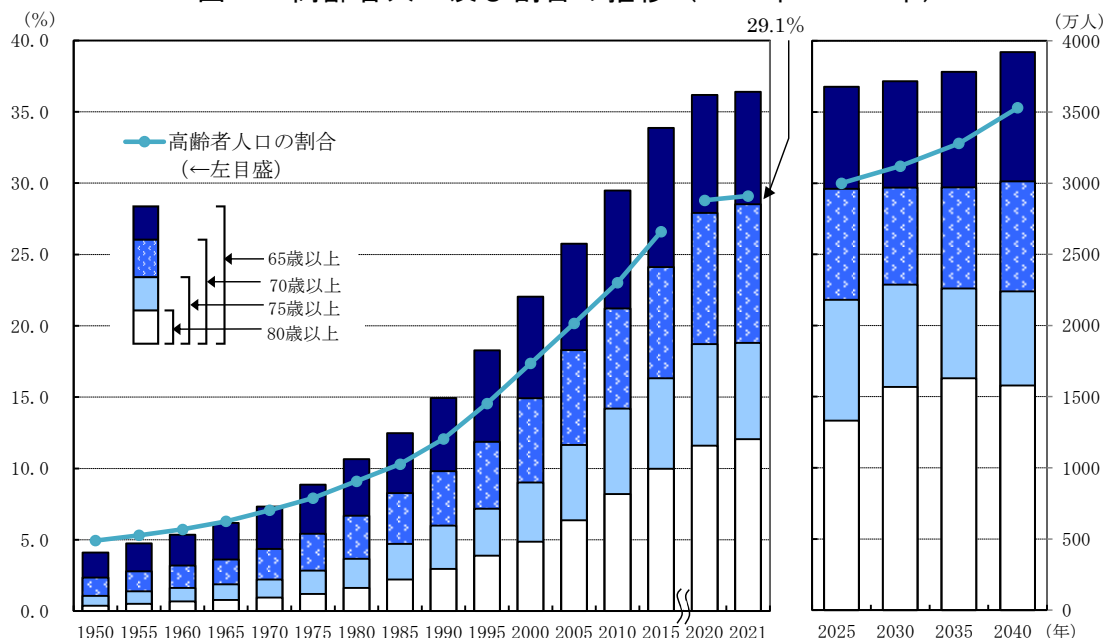


表2 高齢者人口及び割合の推移（1950年～2040年）

年次	総人口 (万人)	高齢者人口 (万人)				総人口に占める割合 (%)			
		65歳以上	うち 70歳以上	うち 75歳以上	うち 80歳以上	65歳以上	うち 70歳以上	うち 75歳以上	うち 80歳以上
1950	8320	411	234	106	37	4.9	2.8	1.3	0.4
1955	8928	475	278	139	51	5.3	3.1	1.6	0.6
1960	9342	535	319	163	67	5.7	3.4	1.7	0.7
1965	9827	618	362	187	78	6.3	3.7	1.9	0.8
1970	10372	733	435	221	95	7.1	4.2	2.1	0.9
1975	11194	887	542	284	120	7.9	4.8	2.5	1.1
1980	11706	1065	669	366	162	9.1	5.7	3.1	1.4
1985	12105	1247	828	471	222	10.3	6.8	3.9	1.8
1990	12361	1493	981	599	296	12.1	7.9	4.8	2.4
1995	12557	1828	1187	718	388	14.6	9.5	5.7	3.1
2000	12693	2204	1492	901	486	17.4	11.8	7.1	3.8
2005	12777	2576	1830	1164	636	20.2	14.3	9.1	5.0
2010	12806	2948	2121	1419	820	23.0	16.6	11.1	6.4
2015	12709	3387	2411	1632	997	26.6	19.0	12.8	7.8
2020	12573	3618	2791	1871	1160	28.8	22.2	14.9	9.2
2021	12522	3640	2852	1880	1206	29.1	22.8	15.0	9.6
2025	12254	3677	2961	2180	1331	30.0	24.2	17.8	10.9
2030	11913	3716	2969	2288	1569	31.2	24.9	19.2	13.2
2035	11522	3782	2971	2260	1629	32.8	25.8	19.6	14.1
2040	11092	3921	3013	2239	1578	35.3	27.2	20.2	14.2

資料：1950年～2015年は「国勢調査」、2020年及び2021年は「人口推計」
 2025年以降は「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生（中位）死亡（中位）推計
 （国立社会保障・人口問題研究所）から作成

- 注1）2020年及び2021年は9月15日現在、その他の年は10月1日現在
- 注2）2020年及び2021年は、平成27年国勢調査を基準としている。
- 注3）国勢調査による人口及び割合は、年齢不詳をあん分した結果
- 注4）1970年までは沖縄県を含まない。

◆「人口推計」の詳しい結果は、次のURLを御覧ください。

<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.html>

人口推計

検索

日本の高齢者人口の割合は、世界で最高

2021年の高齢者の総人口に占める割合を比較すると、日本（29.1%）は世界で最も高く、次いでイタリア（23.6%）、ポルトガル（23.1%）、フィンランド（23.0%）などとなっています。

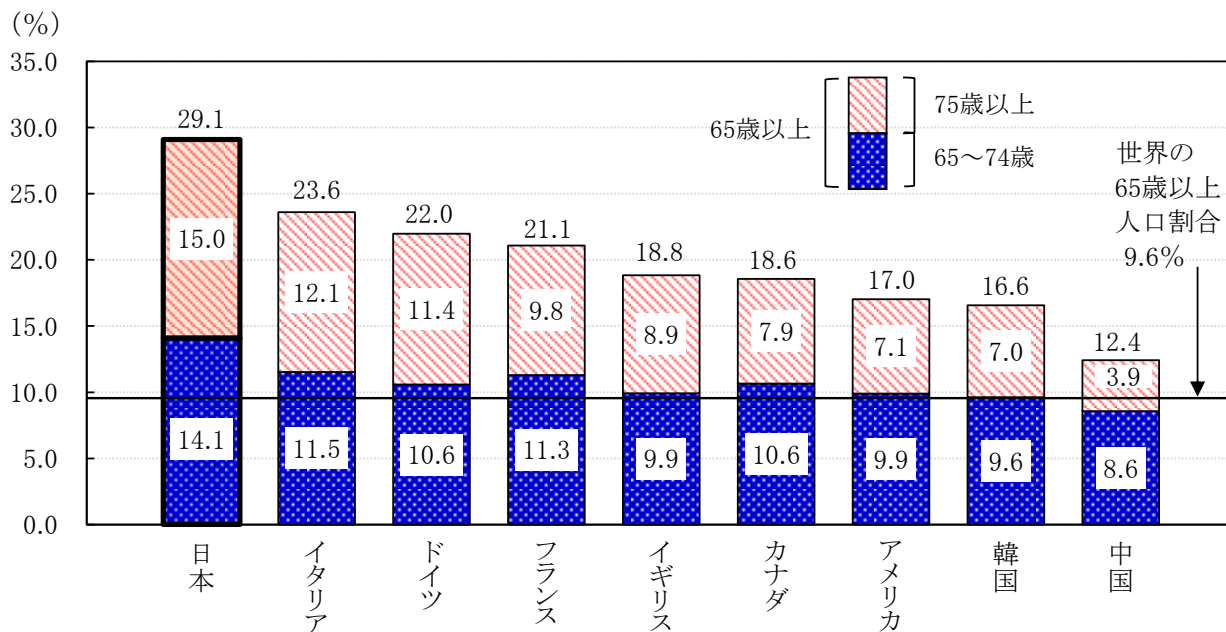
（表3、図2）

表3 高齢者人口の割合（上位10か国）（2021年）

順位	国・地域	総人口 (万人)	65歳以上人口 (万人)	総人口に占める 65歳以上人口の割合 (%)
1	日本	12522	3640	29.1
2	イタリア	6037	1425	23.6
3	ポルトガル	1017	235	23.1
4	フィンランド	555	127	23.0
5	ギリシャ	1037	235	22.6
6	マルティニーク	37	8	22.3
7	ドイツ	8390	1844	22.0
8	マルタ共和国	44	10	21.8
9	ブルガリア	690	150	21.8
10	クロアチア	408	88	21.7

資料：日本の値は、「人口推計」の2021年9月15日現在、
他国は、*World Population Prospects: The 2019 Revision* (United Nations) (201の国及び地域を掲載)における
将来推計から、2021年7月1日現在の推計値を使用

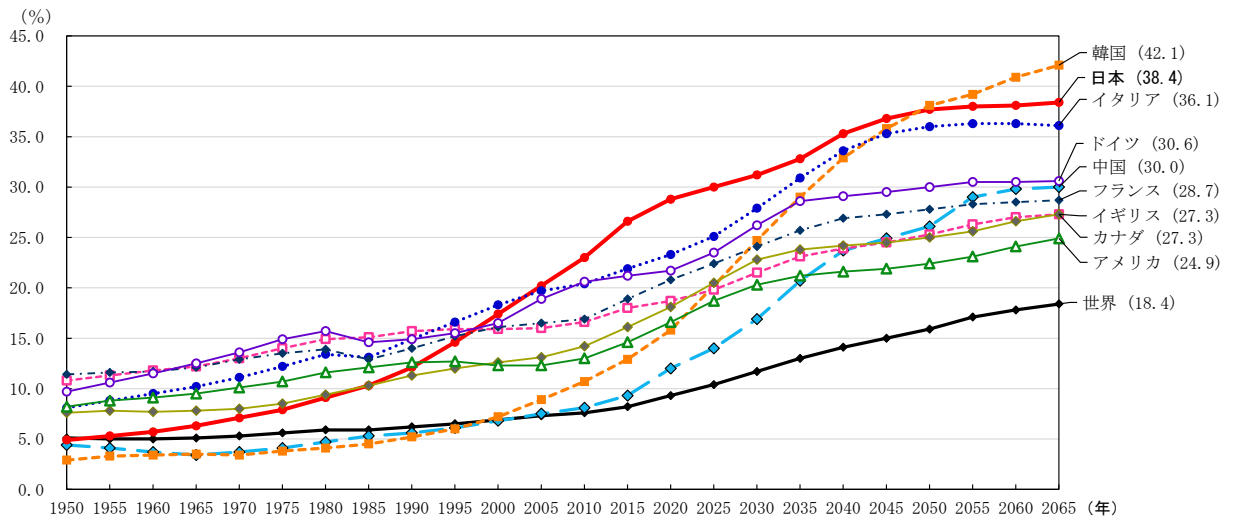
図2 主要国における高齢者人口の割合の比較（2021年）



資料：日本の値は、「人口推計」の2021年9月15日現在、
他国は、*World Population Prospects: The 2019 Revision* (United Nations) (201の国及び地域を掲載)における
将来推計から、2021年7月1日現在の推計値を使用

高齢者の総人口に占める割合の推移をみると、各国とも上昇傾向となっています。（図3）

図3 主要国における高齢者人口の割合の推移（1950年～2065年）



資料：日本の値は、2015年までは「国勢調査」、2020年は「人口推計」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（出生（中位）死亡（中位）推計）における将来推計から各年10月1日現在の数値を使用
 他国は、World Population Prospects: The 2019 Revision (United Nations) の各年7月1日現在

◆詳しい結果は、以下のURLを御覧ください。

人口推計 : <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.html>

World Population Prospects : <https://esa.un.org/unpd/wpp/>

Ⅱ 高齢者の就業

高齢就業者数は、17年連続で増加し、906万人と過去最多

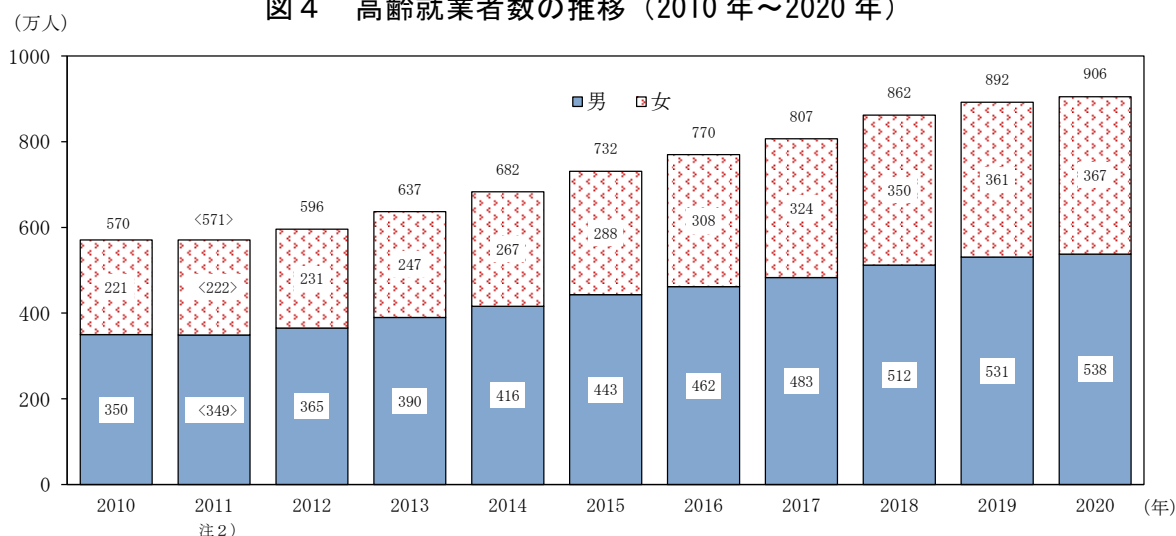
2020年の高齢者の就業者^{※1)}（以下「高齢就業者」といいます。）数は、2004年以降、17年連続で前年に比べ増加し、906万人と過去最多^{※2)}となっています。

※1) 就業者とは、月末1週間に収入を伴う仕事を1時間以上した者、又は月末1週間に仕事を休んでいた者

※2) 比較可能な1968年以降

高齢就業者数の対前年増減をみると、「団塊の世代」の高齢化などを背景に、2013年から2016年までは主に65～69歳で増加、2017年以降は「団塊の世代」が70歳となり始めたことなどにより、主に70歳以上で増加しています。（図4、図5）

図4 高齢就業者数の推移（2010年～2020年）

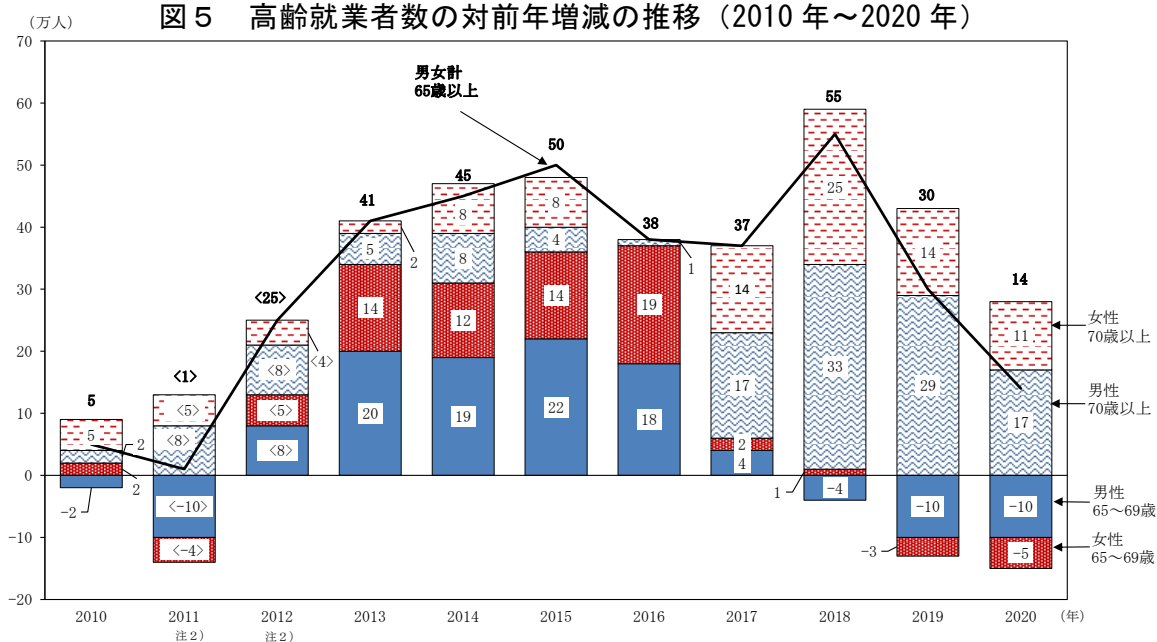


資料：「労働力調査」（基本集計）

注1) 数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計が一致しない場合がある。

注2) 2011年は、東日本大震災に伴う補完推計値

図5 高齢就業者数の対前年増減の推移（2010年～2020年）



資料：「労働力調査」（基本集計）

注1) 数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計が一致しない場合がある。

注2) 2011年及び2012年は、東日本大震災に伴う補完推計値

高齢者の就業率は25.1%、9年連続で上昇

2020年の高齢者の就業率^{※3)}は25.1%となり、9年連続で前年に比べ上昇しています。

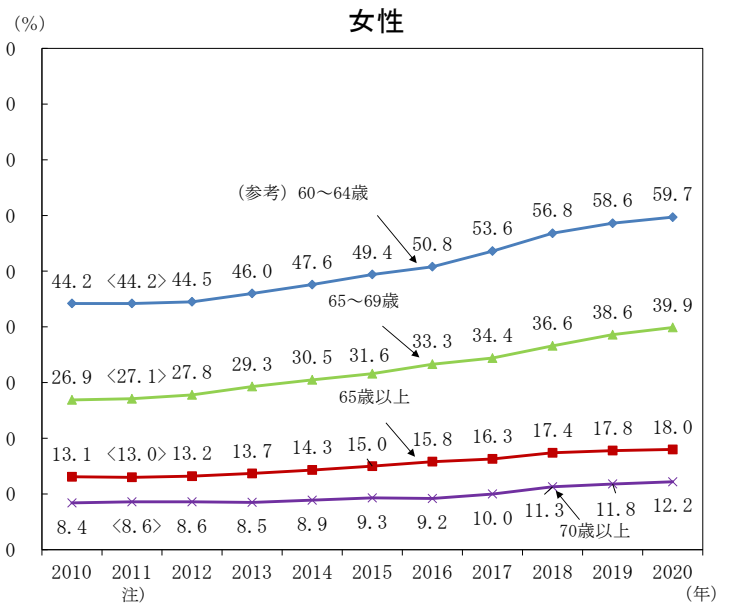
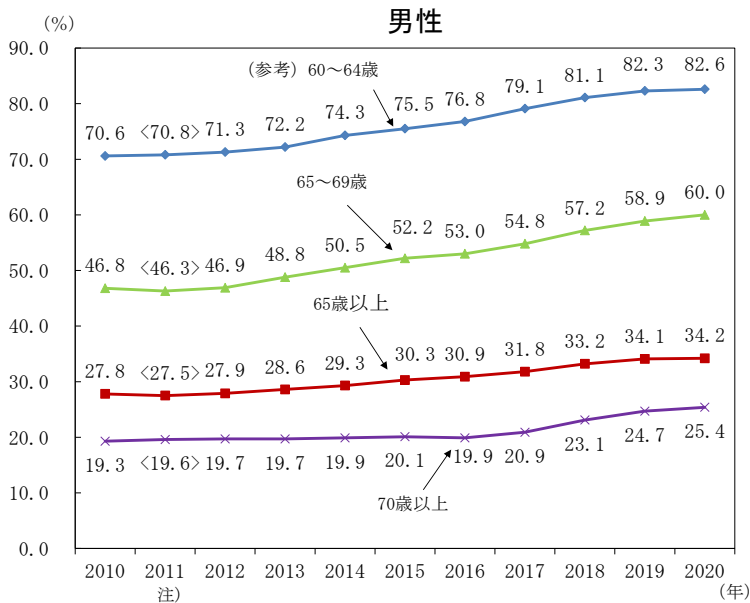
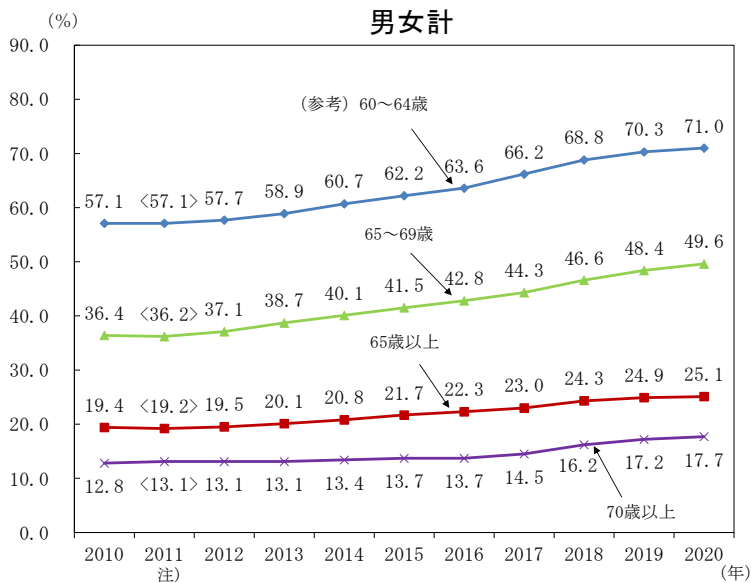
年齢階級別^{※4)}にみると、65～69歳は9年連続で上昇し2020年に49.6%となり、70歳以上は4年連続で上昇し2020年に17.7%となっています。

また、男女別にみると、男性が34.2%、女性が18.0%と、いずれも9年連続で前年に比べ上昇しています。このうち65～69歳の就業率をみると、男性は2014年に50%を超え、2020年は60.0%となっています。一方、女性は2014年に30%を超え、2020年は39.9%となっています。 (図6)

※3) 高齢者の就業率は、65歳以上人口に占める就業者の割合

※4) 年齢階級別就業率は、各年齢階級の人口に占める就業者の割合

図6 高齢者の就業率の推移 (2010年～2020年)



資料：「労働力調査」(基本集計)

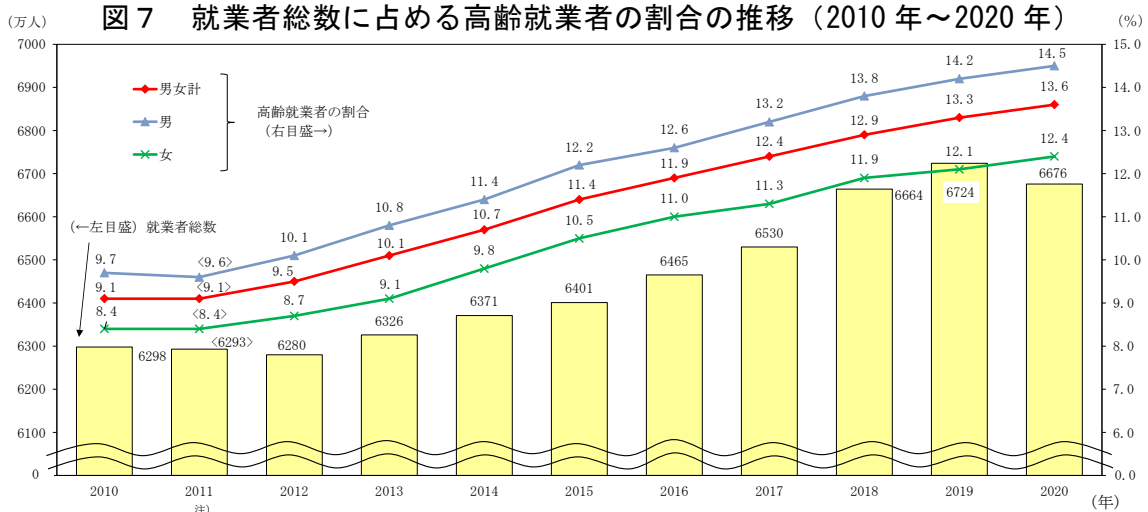
注) 2011年は、東日本大震災に伴う補完推計値

就業者総数に占める高齢就業者の割合は、13.6%と過去最高

15歳以上の就業者総数に占める高齢就業者の割合は13.6%と、過去最高[※]) となっています。

(図7)

※) 比較可能な1968年以降



資料:「労働力調査」(基本集計)

注) 2011年は、東日本大震災に伴う補完推計値

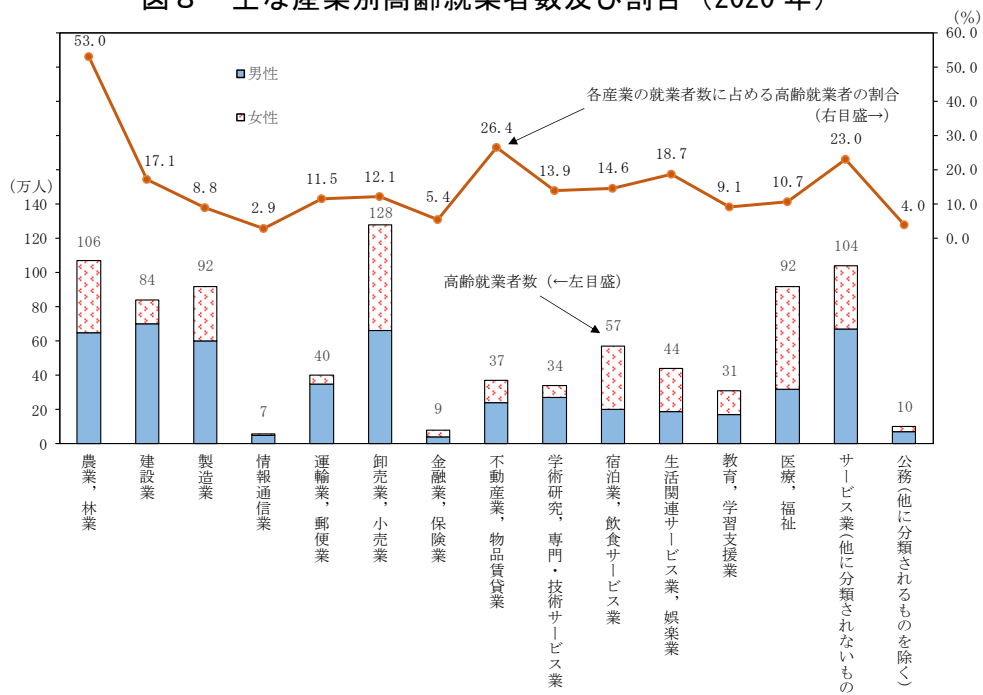
高齢就業者は、「卸売業、小売業」や「農業、林業」などで多い

高齢就業者を主な産業別にみると、「卸売業、小売業」が128万人と最も多く、次いで「農業、林業」が106万人、「サービス業 (他に分類されないもの)」が104万人、「製造業」、「医療、福祉」がそれぞれ92万人などとなっています。

なお、各産業の就業者に占める高齢就業者の割合をみると、「農業、林業」が53.0%と最も高く、次いで「不動産業、物品賃貸業」が26.4%、「サービス業 (他に分類されないもの)」が23.0%、「生活関連サービス業、娯楽業」が18.7%などとなっています。

(図8)

図8 主な産業別高齢就業者数及び割合 (2020年)

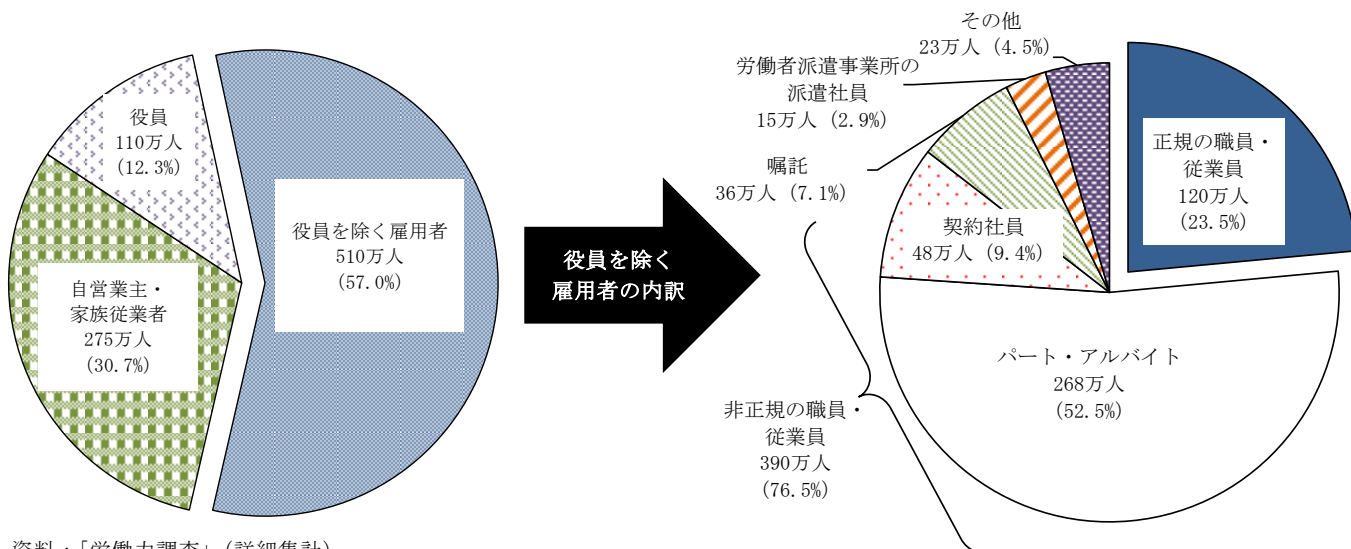


資料:「労働力調査」(基本集計)

高齢の非正規の職員・従業員は10年前に比べ227万人増加し、その割合は7.6ポイント上昇

高齢就業者を従業上の地位別にみると、役員を除く雇用者が510万人で高齢就業者の57.0%、自営業主・家族従業者が275万人で同30.7%、会社などの役員が110万人で同12.3%となっています。さらに、高齢就業者のうち役員を除く雇用者（以下「高齢雇用者」といいます。）を雇用形態別にみると、非正規の職員・従業員が76.5%を占めており、そのうちパート・アルバイトの割合が52.5%と最も高くなっています。（図9）

図9 従業上の地位別高齢就業者及び雇用形態別高齢雇用者の内訳（2020年）

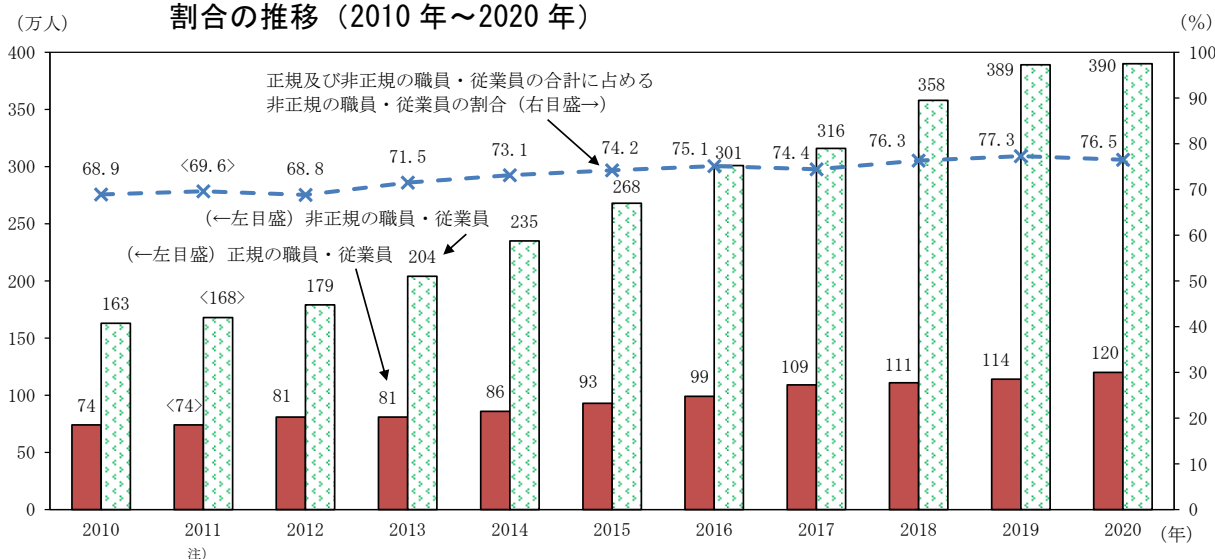


資料：「労働力調査」（詳細集計）

注）割合は内訳の合計に占める割合

また、高齢雇用者数の推移を雇用形態別にみると、正規の職員・従業員は2010年（74万人）から2020年（120万人）で46万人増加し、非正規の職員・従業員は、2010年（163万人）から2020年（390万人）で227万人増加しています。（図10）

図10 雇用形態別高齢雇用者数及び高齢雇用者のうち非正規の職員・従業員の割合の推移（2010年～2020年）



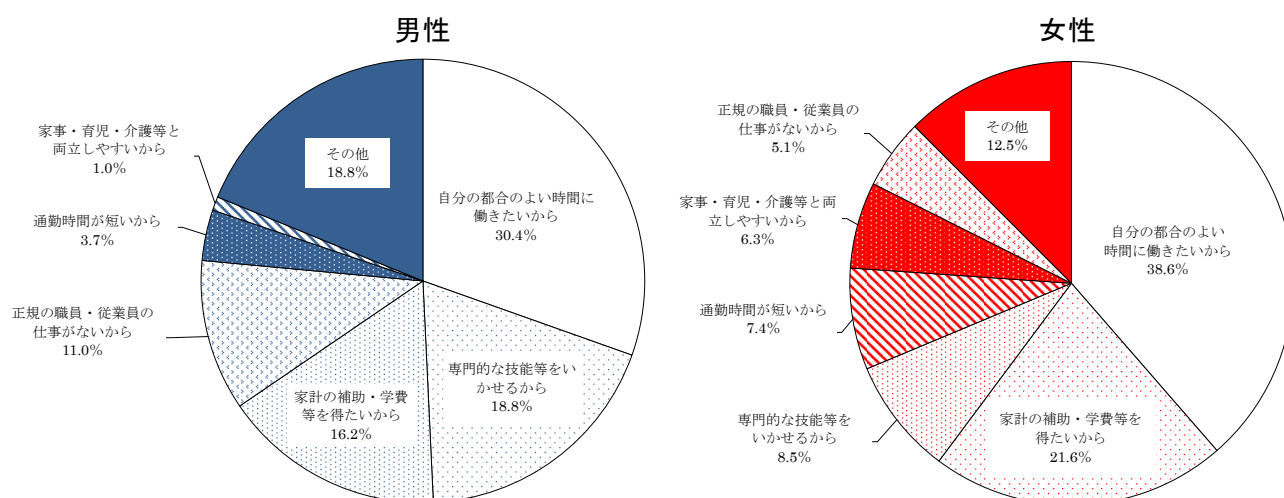
資料：「労働力調査」（詳細集計）

注）2011年は、東日本大震災に伴う補完推計値

非正規の職員・従業員についての主な理由は、男女とも「自分の都合のよい時間に働きたいから」が最多

雇用形態が非正規の職員・従業員の高齢雇用者について、現在の雇用形態についての主な理由別の割合を男女別にみると、男性は「自分の都合のよい時間に働きたいから」(30.4%)が最も高く、次いで「専門的な技能等をいかせるから」(18.8%)、「家計の補助・学費等を得たいから」(16.2%)などとなっています。また、女性についても、「自分の都合のよい時間に働きたいから」(38.6%)が最も高く、次いで「家計の補助・学費等を得たいから」(21.6%)、「専門的な技能等をいかせるから」(8.5%)などとなっています。(図11)

図11 非正規の職員・従業員の高齢雇用者が現在の雇用形態についての主な理由(2020年)

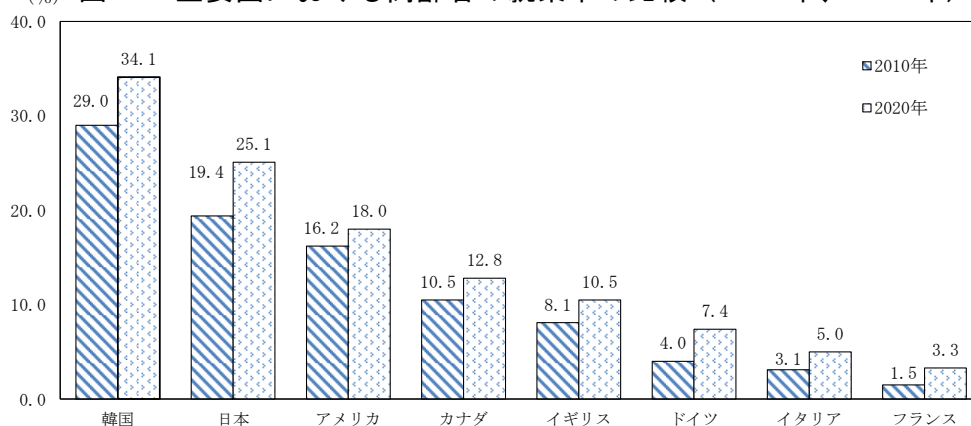


資料：「労働力調査」(詳細集計)
注) 割合は内訳の合計に占める割合

日本の高齢者の就業率は、主要国の中でも高い水準

主要国における高齢者の就業率を10年前と比較すると、日本(+5.7ポイント)、韓国(+5.1ポイント)を始め、各国とも上昇しています。2020年の日本の高齢者の就業率は25.1%となっており、主要国の中でも高い水準にあります。(図12)

図12 主要国における高齢者の就業率の比較(2010年、2020年)



資料：日本の値は、「労働力調査」(基本集計)、他国は、OECD.Stat

<月次結果>

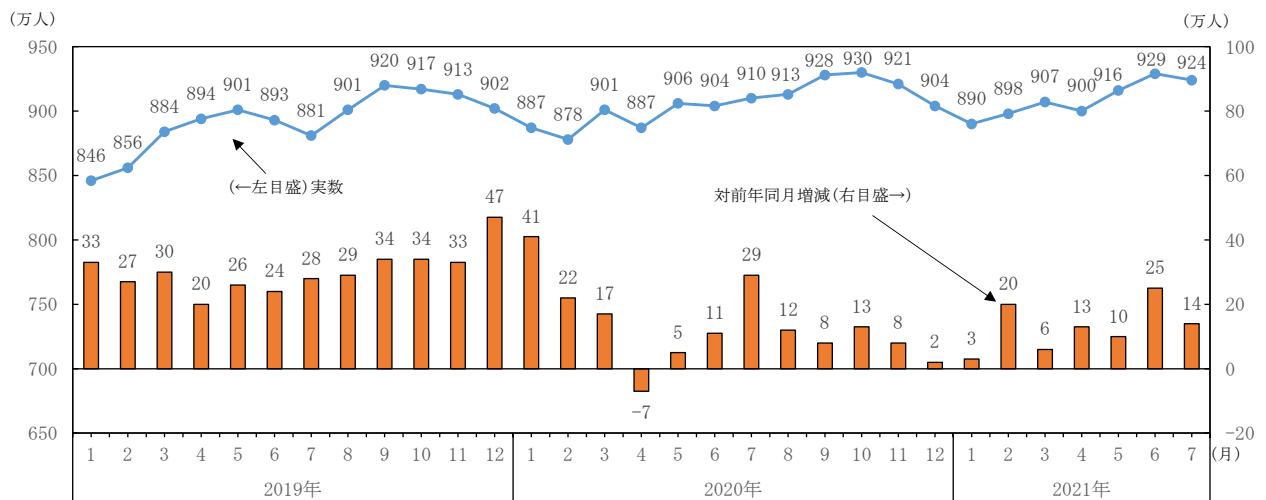
高齢就業者数は2020年4月を除き前年同月に比べ増加

2019年以降の高齢就業者数の推移を月別にみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大後の2020年4月に前年同月と比べ減少したものの、それ以外の各月は前年同月に比べ増加しています。

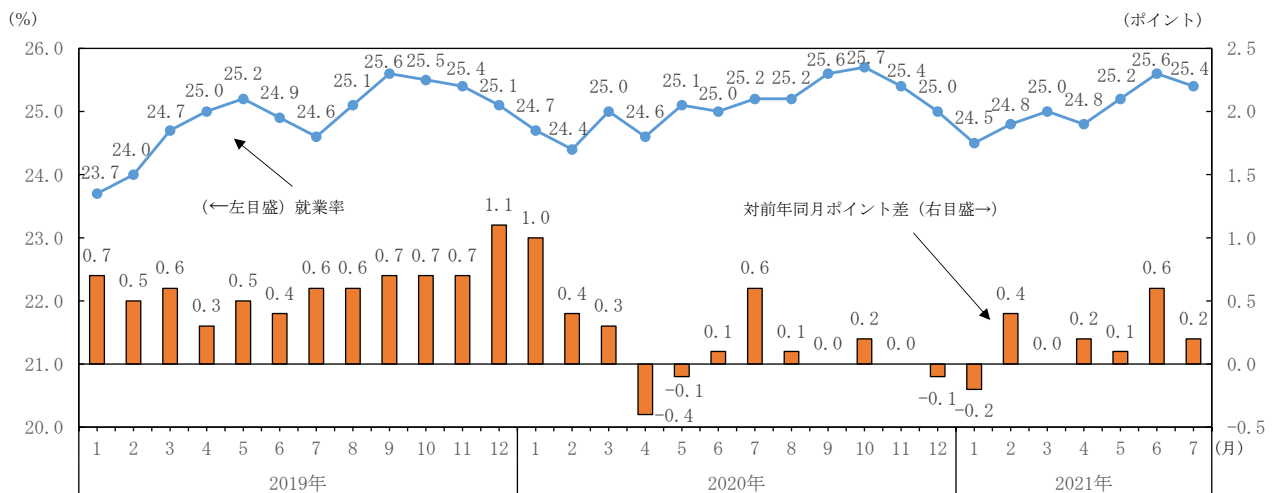
また、高齢者の就業率は、前年同月に比べ2020年4月、5月、12月及び2021年1月に低下し、それ以外の各月は前年同月に比べ上昇又は同率となっています。(図13)

図13 高齢者の就業者数及び就業率の推移(2019年1月～2021年7月)

就業者数及び対前年同月増減



就業率及び対前年同月ポイント差



資料：「労働力調査」(基本集計)

◆詳しい結果は、以下のURLを御覧ください。

労働力調査：<https://www.stat.go.jp/data/roudou/index.html>

OECD.Stat：<https://stats.oecd.org/>

労働力調査

検索



総務省統計局

【問合せ先】

調査企画課企画係

東京都新宿区若松町 19 番 1 号

TEL : (03) 5273-1159 (直通)

E-Mail : r-kikaku@soumu.go.jp

【各項目に関する問合せ先】

- | | | | |
|----|--|------------------------|----------------------------------|
| I | 高齢者の人口
(人口推計)
(World Population Prospects) | 国勢統計課人口推計係
調査企画課企画係 | (03) 5273-1009
(03) 5273-1159 |
| II | 高齢者の就業
(労働力調査)
(OECD. Stat) | 労働力人口統計室審査発表第一係 | (03) 5273-1162 |

※統計データを引用・転載する場合には、出典の表記をお願いします。

資料については、9月19日(日)17時に統計局ホームページで公開します。

総務省統計局ホームページ <https://www.stat.go.jp/>

統計局

検索